

# 週刊センターニュース No.258



第258号(2009年5月11日) 毎週月曜日発行  
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター  
URL: [http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou\\_rche/index.htm](http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm)

## 〇〇〇「第2回教育効果とFDに関する教員アンケート」へのご協力をお願い 〇〇〇

標記に付きポータルで実施中です。教員の方々におかれましては、お忙しいとは存じますが、本学の教育力を高めるために必要なデータ作成につながりますので、ご協力のほど、よろしくお祈りします。最終締切は、5月12日(火) 22時です。

## 〇〇〇 第230回共同学習会のご案内 〇〇〇

日時: 5月14日(木) 16時30分~18時

会場: 角間キャンパス総合教育1号館2階会議室

企画: 西山宣昭(大学教育開発・支援センター)

テーマ: 「履修シミュレータの開発状況と今後の運用に向けて」

報告者: 西山宣昭(大学教育開発・支援センター)

内容: 全学生PC必携を前提とした各学生が自身の卒業要件単位修得状況を把握することができる「履修シミュレータ」の企画、開発については、学域・学類制への移行前から全学カリキュラムWGにおいて進められ、現在、カリキュラム検討委員会、FD・ICT教育推進室が連携してその運用に向けて作業を行っている。このような経緯については昨年度の教育企画会議で報告を行った。今回は、その作業の進捗状況を報告するとともに、運用に当たってどのような問題や課題が存在するかについて参加者と議論したい。

## 〇〇〇 ティーチング・ポートフォリオの意義と可能性

### —第15回大学教育研究フォーラム参加報告を兼ねて 〇〇〇

2009年3月20日(金)から21日(土)にかけて京都大学高等教育研究開発推進センター主催の第15回大学教育研究フォーラムに参加した。個人研究発表、小講演、シンポジウム、ラウンドテーブル等で様々な報告がなされたが、そのうちラウンドテーブル「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップから見た今後の課題と可能性」(企画: 栗田佳代子・大学評価・学位授与機構評価研究部、話題提供者は6名)の内容について簡単にふれたい。

ティーチング・ポートフォリオ(以下TP)とは、「自らの教育活動について振り返り、自らの言葉で記し、様々なエビデンス(証拠)によってこれらの記述を裏付けた教育業績についての厳選された記録」のことである。TPを構成するものは、教育に関する責務(何をやっているか)、理念(なぜやっているか)、方法(どのようにやっているか)、成果(どうだったか)、今後の目標(これからどうするか)で、A4サイズで8~10頁程度の記述と、添付資料から成り立つ。メンターの助言を受けながら12~15時間かけて作成するのが一般的とされる。その特徴として、自己省察、証拠による裏付け、

その人にとって最も適正に評価できると思われる指標を使えるという意味で柔軟、厳選された情報の集積などが指摘できる。教員側のメリットとして、作成プロセスものが教育改善につながることで、評価者へのアピール手段になること、各種評価に効率的に対応できること等が挙がり、一方で組織にとっても、実績報告書では見えてこなかった教員の活動が把握できカリキュラム開発等への重要な情報源となること、多様な視点から教員評価を行う枠組みを提供できること、情報共有等が挙がり、両方にとって教育活動に対して前向きに取り組める出発点となりやすいと期待できる（先の中教審「学士課程教育の構築に向けて（審議のまとめ）」でも、多角的な教員評価の指標として導入・活用の検討を謳っている）。

TP を教育改善の手法の一つとしてうまく導入するコツとして、ポートフォリオアプローチが全教員と大学執行部に完全かつ明確に提示されること、TP 作成（プログラム）において教員が「自分たちのものである」と感じる必要があること、TP が昇格等人事に用いられる場合はその評価基準を明らかにすること、個人差を許容すること、強制されるべきでなく教員の自発性を尊重すること、教務担当の上層部の積極的なサポートを得ること、実行には十分な時間をかけることを指摘する。

こうした栗田氏による説明に続く他の話題提供は、アメリカから専門家を招いた TP 作成ワークショップ、及びこのワークショップに参加してメンターとなった3名により、日本の大学の状況に合わせて設計したワークショップに参加した人からの感想、効果および課題に関する報告であったが、「自分の教育活動について見直し、今後の課題について考えることができた」「TP の枠組は自分の考え方を他に説明するのに有効な方法であると思う」など、全体的に肯定的な印象を持っていた。

以上の報告から、学生の学習ポートフォリオと対応して教員の TP の可能性を感じることができ、TP 自体に対する正しい理解を含め、今後さらに情報収集を進めていきたいと考えている。

（文責 評価システム研究部門 渡辺達雄）

## ○●○ 当センターの研究成果を、学会で報告いたします ○●○

日本高等教育学会第12回大会（担当校：長崎大学）

日時：2009年5月23日（土）、24日（日）

場所：長崎大学文教キャンパス（長崎市文教町1-14）

自由研究発表の各部会においてそれぞれの研究成果を発表いたします。詳細は、次の通りです。

- ・ I-5 部会 高等教育の質保証 「北欧における大学運営、大学評価への学生参画システム運用実態について」 西山宣昭、堀井祐介 他3名
- ・ III-7 部会 学士力 「学士力の育成と獲得に関する学生の意識調査－2008年度金沢大学」  
○末本哲雄、青野透 ○が発表者
- ・ III-8 部会 大学と職業2 「韓国における専門大学構造調整の動向」 渡辺達雄
- ・ III-9 部会 授業改善部会 「学習振り返りのためのクリッカー活用」  
○青野透、末本哲雄、山川達也（キーパッド・ジャパン） ○が発表者

この他にも、FDの実状・ニーズを改めて問い直す形の公開シンポジウム「FDの再定義－現在のFD観を問う」や、大学生の学習行動・生活行動等の現状分析および大学で身に付けた能力職場での活動の関係をみる課題研究「大学教育の改善に向けて－学生調査結果から」など、時宜を得たテーマの報告がなされる予定です。日本高等教育学会は、大学教育研究の成果を広く世に問う貴重な場となっています。大学教育に関心をお持ちの方々、是非ご参加下さい。本大会のスケジュールは、

[http://www.gml.edu.nagasaki-u.ac.jp/jaher2009/program\\_12.pdf](http://www.gml.edu.nagasaki-u.ac.jp/jaher2009/program_12.pdf) をご参照ください。